

総論 The SUISHIN

ヴェトナムにおける下水道整備計画と推進技術普及に向けた最近の動向

やまもと けんいち
山本 賢一
(独)国際協力機構
ヴェトナム事務所次長



1 はじめに

最近、皆さんの周囲で推進工法の海外展開について、耳にされることが多くなったのではないのでしょうか。

実際、ヴェトナム、インドネシアでは両国の首都において国内初の本格的な下水道整備が日本の政府開発援助いわゆるODAにて始められようとしています。これに伴い、ジャカルタでは60km、ハノイでは40kmの推進管整備事業が今年中に入札開始予定です。今後も両国において、まずは首都圏だけでも同規模の推進管整備事業が少なくとも30年に渡り継続発注されます。ジャカルタ特別市を例えるなら東京都区部が一から下水道整備をするようなもので、ハノイ市を例えるなら大阪市が一から下水道整備をするようなものです。皆さんの推進業界各社が今まで大阪と東京の市場でどれだけ受注できたかを考えてみてください。皆さんが一時に押し寄せても有り余るパイが用意されている状態です。

しかしながら、「そうは言っても海外で事業なんて」と尻込みされる方もいらっしゃるでしょうが、そういう方は、以下2点をお考えください。まずは、既に皆さんのお仲間が昨年インドネシア

で同国最大のゼネコンと共同企業体を結成して緊急洪水防御地下排水路事業を獲得したことです。国交大臣賞を受賞されていますので、皆さんご存知でしょう。もう1点は、中野会長、石川専務理事がご指摘されている「日本推進技術のレベルの高さ」です。軟弱地盤における長距離推進、曲線施工は日本のお家芸です。確かにヨーロッパ勢もこれらの技術を有していますが、その経験の豊富さと多様な地質への適用という点で、皆さんの方が1歩も2歩も優っています。

2 東南アジアの現状

ここで、別の視点から推進技術がどういう位置を占めることができるか考えてみましょう。皆さんも東南アジア諸国に旅行に出かけたことがあると思います。出かけたことがなくともテレビを通じてこれらの国の状況をよくご覧になっているはず。空港に降り立った瞬間から日本とは違った雑然とした車とバイクの多さに驚きますが、都心に近付くに連れその雑然さは勢いを増し、都心はまさに車とバイクの渦といった状態です。

さて、こんなところで開削工事をやっ

たらどうなるのでしょうか？想像してみてください。両都市ともに地下鉄事業を始めたところで、上述したようにいよいよ下水道整備事業の入札が開始されます。この状況でただでさえ渋滞している中で開削などを一時期にたとえ数箇所でも実施しようものなら、都市機能が麻痺します。暴動が起こっても不思議ではありません。通常、ハノイ市でもジャカルタ特別市でも都市土木事業はゆっくりと時間をかけて一地域に集中させないような配慮がなされていますが、それも限界です。

推進工法無くして下水道整備事業は立ち行かず、そのことは官民で認識されています。その格好の先駆事例が上述の緊急洪水防御地下排水路事業です。ジャカルタでの共同企業体パートナーである Wija Karya 社からは、「日本のゼネコンとの共同事業には興味がない。我々は日本の Excellent 技術が欲しい、だから推進企業と直接取引したい」との強い要望があり、彼ら自らが訪日の際に皆さんのお仲間である日本の推進企業数社を直接訪ね、今回の共同企業体結成に至っています。同社にとって、日本の大手ゼネコンは良い事業を持ってくれば一緒に組んでも良いという

程度の扱いですが、日本では中小企業でしかない推進企業と下請け契約ではなく共同企業体を組みました。皆さん以上に、日本のゼネコン以上に、海外企業の方が日本の推進工法技術を高く評価していることの表れです。

余談ですが、これは確かに凄い快挙ではありますが、もっと広く日本全体を見れば実は普通に起こっていることです。

皆さんも新聞や雑誌、テレビのニュース等で地方の中小企業が実は世界シェアで一番を占めているとか、アラブの凄いお金持ち企業やアメリカ企業が日本の地方の中小企業にいきなり出資をしたとかいう話を聞いていると思います。海外の企業にとっては日本の技術とノウハウそのものが魅力であって、会社の規模等は2の次です。株式上場だとか会社規模だとかを気にするのは、日本独自の慣行であって海外では大きな意味を持ちません。

3 ヴェトナムの現状

さて、話を私の駐在するヴェトナムの下水道整備に戻しましょう。ヴェトナム南部に位置する経済首都ホーチミン市において200,000m³超/日の下水処理場増設工事が始まりました。これに伴い25kmの推進管整備事業の入札が今月にも開始されます。皆さんのお仲間が受注に意欲を示しているとも聞いています。南部ではこの工事を皮切りにホーチミン市だけで今後5～10年で80km超の推進管整備事業が控えているだけでなく、近隣の都市で順次下水道整備が進められることになっており、これらに伴い各都市で8～10km程度の推進管整備事業が予定されています。北部では首都ハノイ市で冒頭記載したように40kmの推進管整備事業が今年入札開始予定ですが、ホーチミン市同様に今後5～10年でさらに40km超の推進管

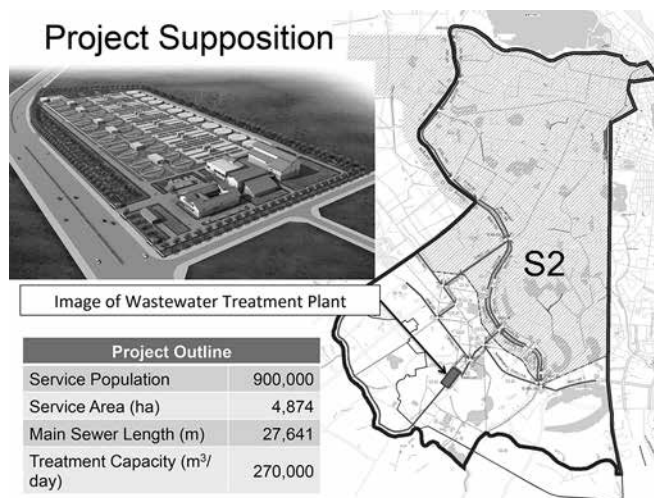


図-1 ハノイ市エンサ下水道整備事業のルート図

整備事業が控えています。図-1はハノイ市エンサ下水道整備事業のルート図です。40kmの多くの部分は都市内河川の両岸に敷設されますので、非常に施工し易いと思います。また、市街地においても幹線道路下のみですので、やはり円滑な施工が期待できます。この40kmを2 または 4 分割したうえで発注の予定です。

4 JICAの役割

ここでまた、「事業が分かってもどうやって参加すれば良いんだ、そんな場所も知らない海外での事業なんて」という声が聞こえそうです。ご心配いりません。上記に挙げた事業のほとんどは日本のODAで実施される予定です。日本のODAであれば、JICA本部やヴェトナム事務所にて前広に情報を入手できますし、あるいは推進協会に一元化して情報を継続的に入手し会員企業の皆さんに情報共有するという方法もあります。さらに、日本のODAで実施するわけですから、当然のことながら長距離推進、曲線施工という日本での皆さんの経験が最大限に活用される（＝相手国で最も必要とされる技術・経験）工事内容となりますので、参加における

ハードルは格段に低くなります。さらに、既に先行してヴェトナム、インドネシアで事業経験を持たれている推進協会のお仲間と共に参入されるのであれば、さらにハードルは下がります。残る懸念は市場の奪い合いと支払いがちゃんと為されるかどうかですが、前者については前述のように十分なパイがあります。後者についても心配ご不要です。日本のODA事業では施工会社への支払いはJICAから施工会社の口座に直接送金されます。かつ支払い請求遅延が生じた場合には、JICA自らが施主に対して督促をかけます。

5 さいごに

どうですか？ 新春に一年の計を願掛けするにあたって、海外での推進管整備事業、特にヴェトナムにおける事業への参加を祈念する気になっていたのでしょうか？

遠い先ではなく目の前にパイは十分に用意しました。ゼネコンなんて必要ありません、皆さんの技術が尊敬を持って迎入れられます。先行するお仲間がいます。後は皆さん次第です。ヴェトナムでお待ちしております。